



記事に
関連する資料は
このQRコード
から

●事業の「ふりかえり」とは

自分の行動や決断がどのような結果につながったかを思い返し、その原因や意味を理解し、次の行動に活かすための行為のことです。学校の授業では探究型授業が重視されるようになり「ふりかえり」に着目し、授業の改善に取り組んでいます。今回夕陽館の運営事業者が決まった津屋崎地区の活性化の取り組みについて、計画の変更が続く東福間駅周辺地区にぎわい再生事業をふりかえってみました。

●津屋崎地区夕陽館・豊村酒造の今後は浴槽の拡大、露天風呂、サウナの増設、福津市産を利用したビュッフェやカフェや会議室・コミュニティエリアなど市民に愛される集いの場として、令和8年4月

の開業を予定に進められていくとのことです。また保存活用が勧められている国の重要文化財の指定を受けた豊村酒造の旧醸造場施設。さらに昨年「日本の酒造り」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。これをきっかけに福津市産の米を



●露天風呂やサウナが計画されている夕陽館



地域
拠点

市の
考えは

使った酒づくり、津屋崎千軒町家の保存と活用を農漁業・商工業の関係者と、これまで係わった学識経験者や地元関係団体・市民と連携した、津屋崎の食と観光プロジェクトチームを立ち上げ取り組むことが必要と考えます。

東福間駅周辺地区の再生は

この地区の再生事業は、令和2年3月に策定された「東福間駅周辺地域にぎわい再生計画」の提言に沿って進められてきました。途中2回、見直しが行われて令和6年11月23日に神興郷づくり交流センターで市の駅前再生整備計画の説明会が開催されました。市の説明では、当初

の計画にあった商業施設は中止となり、下記の図に示している①東福間第1公園②南北連絡通路③東福間駅駅前広場④若木台駅駅前広場の4か所の再生・整備を令和8年度末を目途に進めていくとのことでした。

参加した市民からは、駅に隣接した東部処理場の撤去・整備や住民の買い物の足となる交通網の充実、老朽化した駅舎(市の管理部分)の改修がまずは必要との要望が出ました。市はこれを受けて、費用対効果を加味しながら見直しを進めており、今後住民の利便や要望に沿った計画変更が行われるか注視していきたい。

